

No	テーマ	内容	対象者			大学等名称	学部	氏名		問合せ先
			小学生	中学生	高校生					
1	観光資源化する都市祝祭 よさこい/YOSAKOI系祭りの可能性	四国・高知でスタートし、北海道・札幌での模倣がきっかけに日本全国、世界各地で開催される「よさこい/YOSAKOI系祭り」その成り立ちや変貌、グローバルな展開を辿りながら、観光資源としての可能性を考えます	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	内田 忠賢	せとうち観光専門職短期大学 広報課
2	レジャーランドの文化誌	鷺羽山ハイランド、レオマワールドほか、高松市周辺には昭和時代から続く巨大レジャーランドが残ります。それらの先駆けとなった、高度経済成長期の巨大レジャーランド、船橋ヘルスセンター、常磐ハワイアンセンター（現スパリゾート・ハワイアンズ）、奈良・横浜ドリームランド…ユニークでキッチュな巨大レジャーランドを時代背景から読み解き、将来のレジャーを考えます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	内田 忠賢	せとうち観光専門職短期大学 広報課
3	海外修学旅行の文化史	戦前、日本の当時の高等教育機関、旧制高校、旧制高等師範、旧制高等商業などでは、将来の日本を背負う人材育成を目論み、朝鮮半島、台湾、満州という当時の植民地への修学旅行を行いました。旅先で若者たちは何を見、何を考えたのか？ 明治初年以來の修学旅行の系譜を辿りながら、若者たちの海外旅行の歴史を考えます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	内田 忠賢	せとうち観光専門職短期大学 広報課
4	地域資源の再評価	地方の課題である人口減少・少子高齢化は、地域の経済活動や社会生活の縮小衰退が懸念されている。その様な中で地方創成の切り札と期待されるのが「観光」である。メジャー観光地でなくとも、どんな地域にも存在する日常の地域資源をビジネスとしての観光素材とする考え方や手法を学びます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	大熊 伸二	せとうち観光専門職短期大学 広報課
5	交通産業と社会	鉄道・航空・バスなど公共交通は、社会インフラ・生活サービスなどと言われます。交通は社会や生活とどの様に係り影響するのか、その変遷を紐解き、大都市集中と地方格差の課題の中で問われる公共性、事業性、その間にあるとされ着目され始めた「共助」について考えます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	大熊 伸二	せとうち観光専門職短期大学 広報課
6	ゲストハウスってどんなところ？	ここ数年、ゲストハウスという宿泊施設が多くみられるようになりました。ホテルとは異なり見知らぬもの同士で1つの部屋に宿泊したり、トイレやシャワーを共同利用したりするのが特徴です。安価なので外国人の若者もよく利用します。ゲストたちはどんなふうに過ごし、ホストはどう切り盛りしているのでしょうか？	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	教授	田保 顕	せとうち観光専門職短期大学 広報課

7	うどん県の国際化 ～英語が話せなくてもできる国際化とは～	国際化が地域にもたらす活性効果を学ぶ。日本人の常識と海外旅行者の常識を比較し、ダイバーシティとは何かを考え、今後の国際化における重要なポイントを見出す。香川県内の地元住民によるインバウンド客の受け入れ活動などの事例をもとに、国際化の本質とは何かを生徒と一緒に考える。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	石床 渉	せとうち観光専門職短期大学 広報課
8	「観る」観光から「感じる」観光へ～瀬戸内の宝を見つけ、発信しよう～	生徒自らが地域の素晴らしさに気づき、伝えることの大切さを学ぶ。瀬戸内の事例から、なぜ観光地として注目を集めるようになったのかその経緯を理解する。また、グループワークにより身近にあり観光素材を話し合い発表する。【グループワーク】	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	石床 渉	せとうち観光専門職短期大学 広報課
9	地方発 一流ホテルマンへの道	ホテルで仕事をするうえで大切なホスピタリティとは何かを考え、必要な人材像を考察する。地方出身者が国内外のホテルで仕事に就き、お客様から感謝されることでやりがいを見出すまでの経緯を自身の経験をもとに説明する。また、ホテルの現場だけでなく、必要とされるスキルや現場で対応できる人材とはどういうものかを考察する。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	石床 渉	せとうち観光専門職短期大学 広報課
10	メディア作品から見た瀬戸内の魅力	瀬戸内を舞台にした映画、テレビ、雑誌などのメディア作品をとおり、観る側の心に響くもの、地元の人気づかない地域の誇るべきものは何かを学ぶ。数々の瀬戸内で撮影された映画などをもとに、メディア制作側と地域住民が一体となったフィルムコミッション事業が地域にもたらす波及効果を検証する。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	石床 渉	せとうち観光専門職短期大学 広報課
11	「海外から見た瀬戸内」と「瀬戸内から見た海外」	日本と海外の価値観や文化の違いについて考察する。「瀬戸内の観光」などを題材にグループワークにて簡単な SWOT 分析をおこない身近な観光資源に気づく時間を持つ。仕事や旅行など様々な目的で来日するインバウンドへの対応の違いや、リスクを明確にし、課題を考察する。【グループワーク】	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	石床 渉	せとうち観光専門職短期大学 広報課
12	ホテルのこれまでと今 そして将来展望 ～富裕層向け外資系ホテルの客室は果たして10万円以上で売れるのか！	「宿泊施設の目的地化」最近、こう言われるように、個性的なホテルが増えてきています。ペットホテル、ライブラリーホテル、カルチャー教室やライプハウス併設のホテル、住宅展示場兼用の宿泊施設等々。 また、都市部のみならず、地方にも続々開業している高級外資系ホテルのトレンドを解説したうえで、マンダリンオリエンタルホテル高松の成否を予想します。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	島田 裕之	せとうち観光専門職短期大学 広報課

13	ホテルマンから教わる人生で大切なたった一つの事	「人は見た目が9割」、「人は第一印象が大切」、生まれ持った顔やスタイルは変えられません。しかし、高校生の時からあることを意識するだけで人生は劇的に変えられます。メラビアン の法則を改めて学び、【コミュニケーションの実習】をしていきます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	島田 裕之	せとうち観光専門職短期大学 広報課
14	日常世界とコミュニケーションと観光と	旅行や観光とは非日常の体験です。それらは日常の反対側にあるものです。だから、楽しいのだ、と言えます。それに比べて、日常とは、退屈な世界だといえるのかもしれませんが。しかし、私たちは日常がどのように出来上がっているのかをよく知りません。生きているという実感を与えてくれるのは日常です。そこに安定性があるからこそ私たちは平穩に生きることができるのです。しかし、それは不動の安定性を持ちません。ダイナミックで波乱に富んだものでもあります。ここでは、その日常をコミュニケーションという視点からとらえ、観光の持つ魅力を解き明かします。観光社会学の観点から、「日常」の新たな側面を学べます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	准教授	高橋 紀穂	せとうち観光専門職短期大学 広報課
15	なぜ屋島は観光地になったのか	源平合戦の「屋島の戦い」で知られる屋島は、どのようにして観光地になりえたのでしょうか。特定の地域に人々が足を運ぶようになるまでには、いくつもの理由があります。鎌倉時代から現在まで、屋島が人々を惹きつけてきた理由を、文学、芸能、土産物などを通して、文化史的な観点から探っていきます。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	助教	松尾 有起	せとうち観光専門職短期大学 広報課
16	観光と水族館	みなさんは水族館に行ったことがありますか？いつ、誰と、何のために行きましたか？社会動向とともに、水族館のあり方や役割は変わってきました。これまでの日本の水族館の歴史を振り返り、観光と水族館の関係について考えてみましょう。【グループワーク】	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	助教	川田 里絵	せとうち観光専門職短期大学 広報課
17	街中の「サブカルチャー」から社会を知る	街中でよく見かける、スケートボードやダンスをする人々、また壁やシャッターなどへの落書きなどを見たことはありませんか？一見「路上の迷惑行為」として扱われることが多いこれらは、今では五輪競技になったり観光資源になったりと、異質な文化を社会が受け入れ始めている証拠ではないでしょうか？では社会はそれらに一体何を求めているのでしょうか？街中で見かけるサブカルチャーの社会的意味について探っていきましょう。	—	—	○	せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	助教	有國 明弘	せとうち観光専門職短期大学 広報課